

『令和6年度 全国学力・学習状況調査(4月18日調査実施)』 本校6年生調査結果概要等のお知らせ

令和6年4月18日(木)に、全国の6年生を対象として『令和6年度 全国学力・学習状況調査』が実施されました。本調査は、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童への教育活動の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

本校6年生の個人の結果につきましては、既に各家庭にお知らせしておりますが、この度、本校6年生全体の分析をお知らせいたします。このうち、「課題」につきましては、6年生だけの課題としてではなく、本校児童全体の課題として捉え、「改善の方向」も同時に、全学年を通じて改善を進めていく方向を示しております。

なお、文部科学省からの通知にもありましたが、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることを踏まえてご覧いただきたく存じます。

【小学校 国語】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

思考力、判断力、表現力等

「話すこと・聞くこと」

◆全国平均と比べ、下回っている。

「書くこと」

◇全国平均と比べ、ほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「読むこと」

◆全国平均と比べ、下回っている。

知識及び技能

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

◆全国平均と比べ、下回っている。

「情報の扱い方に関する事項」

◆全国平均と比べ、ほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「我が国の言語文化に関する事項」

◆全国平均と比べ、下回っている。

☆全般的に全国平均を下回っている内容が見られる。一方で、「書くこと」の領域では、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに成果が見られる。

今回の調査における課題

○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討すること。

○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

○文の中における主語と述語との関係をとらえること。

○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。

改善の方向

このような学習活動を充実させていきます。

○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する学習活動。

○登場人物の行動や会話、様子等を表す複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを考えたり、表現が読み手に与える効果について考えたりする学習活動。

○日常的に主語が何かを意識して読んだり書いたりする学習活動。

○様々な図示の方法に触れ、考えを明確にしたり思考をまとめたりすることができるようにする学習活動。

○日常的に読書に親しむ中で、「読書の記録」を見返すなどして自分自身の気づきを引き出す学習活動。

【小学校 算数】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

「数と計算」

○全国平均と比べ、下回っている。

「図形」

○全国平均と比べ、下回っている。

「変化と関係」

○全国平均と比べ、下回っている。

「データの活用」

○全国平均と比べ、下回っている。

☆全般的に全国平均を下回っている。特に「データの活用」領域の落ちや重なりがないように分類整理することや表から必要な数値を読み取って式に表し、判断することなどに課題が見られる。

今回の調査における課題

○除数が小数である場合の除法の計算ができること。

○直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解すること。

○道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できること。

○二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理すること。

改善の方向

このような学習活動を充実させていきます。

○除数が小数である場合の除法の計算の仕方を考える学習活動。

○円周率が、円周の長さの直径の長さに対する割合であることを理解できるようにする学習活動。

○場面や目的に応じて、単位時間当たりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、速さを比べる学習活動。

○目的に応じて必要なデータを取り出して、分類整理し、表に表す学習活動。

「教科に関する調査」の結果から

本調査の結果から、国語では、「書くこと」の内容で成果が見られました。一方で、国語においては、特に「話すこと・聞くこと」「言語の特徴や使い方に関する事項」、算数においては特に「データの活用」の一部の領域や問題形式に課題があり、指導を工夫・改善すべき課題があることが明らかになりました。

本調査結果における成果や課題を踏まえ、今後、本校では、「学ぶ意欲の向上」と「基礎的・基本的な知識・技能の習得」をより一層図るため、的確な実態把握・分析をもとに、より個に応じた学習指導を行っていきます。また、算数学び「beyond」の充実、T・Tや少人数指導の活用、漢字や計算のチャレンジテストの有効な取組等にも力を入れ、一人一人の確かな学びを保障して参ります。

【質問調査】 学習に対する関心・意欲・態度や課題探究的な学習に関わって

- 肯定的な回答をしている児童の割合が、全国平均と同程度または上回っている
 - ・「理科の勉強は好きですか」「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問をもったり問題を見いだしたりすることがありますか」
 - ・「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」「算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか」
 - ・「国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか」
- 肯定的な回答をしている児童の割合が、全国平均を下回っている
 - ・「英語の勉強は好きですか」
 - ・「算数の授業内容はよく分かりますか」
 - ・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」

【質問調査】 人間尊重の教育に関わって

- 肯定的な回答をしている児童の割合が、全国平均と同程度または上回っている
 - ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」
 - ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」
 - ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」
- 肯定的な回答をしている児童の割合が、全国平均を下回っている
 - ・「将来の夢や目標をもっていますか」
 - ・「自分にはよいところがあると思いますか」
 - ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」

【質問調査】 自主的な活動・家庭生活・地域での生活・その他

- 肯定的な回答をしている児童の割合が、全国平均と同程度または上回っている
 - ・「あなたの家にはおおよそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）」という設問に対し「101冊以上」を選択
 - ・「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」
 - ・「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いに意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」
- 肯定的な回答をしている児童の割合が、全国平均を下回っている
 - ・「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」
 - ・「学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾、家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」という設問に対し、「1時間以上」を選択
 - ・「普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」という設問に対し、「3時間以内」を選択

「質問調査」の結果から

上記の結果から、本校児童は、「いじめは、どんな理由があってもいけない」「先生は、よいところを認めてくれている」という思いをもっている一方で、「将来の夢や目標をもつ」「自分にはよいところがある」など、「自らをプラスのイメージで捉え、自分の生活や将来と結び付けよりよい生活を創造しようという前向きで積極的な態度」を、更に伸ばしていく必要があることが明らかになりました。また、生活習慣に関わっては、毎日朝食を食べる、就寝時刻が定まっている児童の割合が全国と比べて低いこと、家庭での過ごし方では、普段、ゲームを1日当たり3時間以上している児童の割合が全国と比べて高いことが分かりました。

今後、「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」という思いを大切に、よりよい人間関係・社会生活の構築に向けて、人と関わる必要性や必然性、そして達成感を味わえる学習・活動の場を設定し、子どもたちの伸びや成長を価値付け、意欲を高める指導を続けていきます。

お子さんの力を伸ばすために

学校と家庭が一体となって子どもの学習習慣・運動習慣・生活習慣づくりを支える指針として、札幌市が作成した家庭向けリーフレット「さっぽろっ子『学び』のススメ」を4月に配付しております。このリーフレットでは、「学ぶ力」の育成に向けた五つのポイントを家庭向けに具体化し、その頭文字を取った「まほうのかいわ」を合言葉としています。

さっぽろっ子「学び」のススメ

さっぽろっ子「学び」のススメは、子どもと家庭、子どもと学校、学校と家庭をつなぐとともに、子どもの権利を大切にします。

子どもは、どの子どもよさや可能性をもっています。大人は子どもを他者と比較するのではなく、その子自身の成長を認めていくことが大切です。学校で、家庭で、子どもに寄り添い、伸びを認め、意欲を高める共感的・肯定的なメッセージを伝え、子どもの成長を促していきましょう。

学校も、家庭も、**まほうのかいわ**で習慣づくり

ま 学んだことを一緒に振り返りましょう。

まほう 方法を一緒に考えましょう。

の 伸びを認め、ほめましょう。

かい 改善に向けて、生活を一緒に振り返りましょう。

わ わからないこと、できないことに挑戦できるように励みましょう。

SAPPORO 札幌市教育委員会

この「さっぽろっ子『学び』のススメ」の活用により、「子どもはどの子どもよさや伸びる可能性をもっており、学校・家庭は子どもを認め、意欲を高めるメッセージを伝え、成長を促すように関わるのが大切である」という子ども観・教育観を学校と家庭が共有することが重要と考えています。

また、子どもたちの学ぶ力を伸ばしていくためには、学校での学習はもちろんのこと、ご家庭でも子どもたちが進んで机に向かい、学習する意欲と習慣が欠かせません。また、基本的な生活習慣の定着は、社会の中で生活していくうえで必要な、「お互いが守るルールや礼儀」「学習意欲や体力、気力」の育成につながります。

今後、教職員一同、ご家庭の皆様とともに、学力だけではなく、子ども一人一人の“将来の社会人”として育ちを支えていきたいと考えております。ご家庭におかれましては、お子さんの確かな成長の機会や環境作りへのご協力を今後ともどうぞよろしくお願いいたします。